### dboutput

入力として受け取ったクエリ結果をSQLクエリ文に変換し、外部SQLサーバーに投入します。[dbload](https://docs.logpresso.comnull)コマンドと同じ機能を持ち、rowretryオプションのデフォルト値のみが異なります。

#### 構文

dboutput PROFILE [OPTIONS] table=TABLE FIELD, ...

必須パラメータ

**PROFILE**

JDBC接続プロファイル。プロファイルはWebコンソールで構成できます。

ENT-3.10.2009.0、SNR-3.1.2008.0配布バージョンから、JDBCプロファイルは接続プロファイルに統合されました。

**table=TABLE**

データを投入するテーブル名

**FIELD, ...**

データベースに投入するフィールドリスト。フィールドの区切りにはカンマ（,）を使用します。フィールド名の前に+記号を付けると、キー列として認識されます。

フィールド名は対象テーブルのカラム名と一致している必要があります。フィールド名とカラム名が一致しない場合は、dbloadコマンドの前に[rename](https://docs.logpresso.comnull)コマンドを使用して、SQLデータベースのカラム名と一致させてください。

オプションパラメータ

**batchsize=INT**

データベースバッチトランザクションに適用する処理単位。単位が大きいほど一度に多くコミットされ効率的ですが、トランザクション失敗時にロールバックされるレコードも増加します。推奨値は2000です。処理単位を指定しない場合、1件単位でコミットされるため、処理速度が遅くなる可能性があります。

**database=SCHEMA**

接続後に使用するデータベース（またはスキーマ）

**rowretry=BOOL**

行単位で再試行するかどうか（デフォルト：f）。設定するとパフォーマンスに影響しますが、データ損失を最小限に抑えることができます。

* t：バッチトランザクションが失敗した場合、行単位でトランザクションを実行
* f：バッチトランザクションが失敗した場合、行単位トランザクションを実行しない

**stoponfail=BOOL**

クエリコマンドが失敗した場合にトランザクションを停止するかどうか（デフォルト：f）。

* t：クエリが失敗した場合、トランザクションを停止
* f：失敗したトランザクションをスキップし、次のトランザクションを実行

**type=update**

実行するSQLクエリのタイプをinsertまたはupdateから指定（デフォルト：insert）。

updateに設定する場合、FIELDに少なくとも1つ以上のフィールドをキー列として指定する必要があります。